1 学校教育目標

技術革新やものづくりを支える将来の専門的職業人の育成及び社会に有為な職業人の育成を実現するため、次の重点目標を設定する。

- ① 生徒の進路希望や特性に応じた教育の推進
- ② 旺盛な気力、強靱な身体、豊かな人間性を備えた逞しい技術者の育成
- ③ 正しい職業観や勤労観、創造性や勤労意欲に富む専門的職業人の育成

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【学校運営】本年度の一大イベントである全国高等学校ロボット競技大会の運営に、主管校として全校生徒及び全教職員が一丸となって取り組み、学校全体として貴重な体験ができたことは今後の学校運営における財産となった。この体験を生かし学校運営の様々な取組を加速させることで今後もさらに地域に愛される学校づくりを目指していきたい。学校運営協議会では、委員の方々から建設的な多数のご意見をいただき、また本校への期待の大きさを感じることができ、ご意見やご提言を具体的な取り組みに反映させていかなければならない。

【学習指導】資格取得に向けた取組については、目標どおりの結果を出すことができた。一方で普段の家庭学習の取組については、生徒の意識や学習時間の不足について課題が残った。授業以外の個人指導や補習を継続するとともに、授業改善や家庭学習支援の具体的な手立てを示すことで、生徒の学習意欲の向上や家庭学習時間の増加を図りたい。また、今年度から導入した「基礎力診断テスト」の結果や既存の「課題テスト」等を併用しながら、確かな学力の定着と向上を図りたい。

【生徒指導】生徒の自己指導能力の育成を目標とし、面談等とおして生徒理解に努めたが、問題行動件数は昨年度と比較し増加した。また、些細なものも含めいじめと認知された事案も数件発生した。何れの事案についてもSNSによるトラブルが原因となっており、ネット上でのトラブル回避や生徒間のコミュニケーション力を高めるための指導について、未然防止を含めた対策を講じていきたい。

【進路指導】本年度の3年生については概ね希望どおりの進路が決定した。従来どおりの進路指導に加え、新たな求人先の開拓や生徒の資質能力など特性に沿ったマッチングに視点をおいた就職指導の充実や、大学や高専編入希望者に対し、十分な情報提供や受験対策についての指導を充実させていきたい。

【健康安全教育】健康診断結果による治癒率の更なる向上を目指し、保健体育課、学級担任、部活動顧問、保護者が連携し生徒自身が健康管理に対して適切な生活習慣や行動がとれるよう、保健指導の充実を図りたい。また、インフルエンザ等の感染症予防についても蔓延防止に向けた早期の指導を図りたい。

【特色づくり】地域産業を担う人材育成の視点から、「下工キャリアアップセミナー」や「小学生ものづくりコンテスト」など既存の行事について内容の見直しを行い、地域の子どもたちにとって魅力ある学校をアピールし、入学志願者数の増加に繋げていきたい。

【業務改善】教職員の負担軽減に向けて、業務の均等化を図るために改めて見直しを行い、教職員が実感できる働き方改革を実行していかなければならない。これまでの取組を検証し、効率的な業務の遂行や適切な部活動指導による時間外業務時間の削減など、教職員の協力を仰ぎながら働き方改革を進めていきたい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

1 重点努力目標・・・地域産業を担う人材の育成 『凡事徹底』

(1) 【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得

- ・学習意欲の向上と学習習慣の確立
- ・多彩なカリキュラムによるキャリア教育の充実
- ・外部人材活用による技能の向上と資格取得指導の充実

(2) 【生徒指導等】人間力の向上(自ら気づき、考え、行動できる人)

- ・時を守り、場を清め、礼を正す
- ・自己肯定感、自己有用感、自己指導能力の育成
- ・集団生活に必要な気持ちの良い受け答えや対応力の育成

(3) 【校務分掌・その他】教職員の協働体制による組織力の向上

- ・各分掌や各学科、各学年の目標管理による共通理解と協働実践
- ・学校評価を生かした積極的な改善
- ・学校における諸課題の共有と組織による協働改善

2 チャレンジ目標

「皆勤(遅刻・欠席0)」
「ステップテスト点数8割以上」

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成度診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務部	・保護者との信頼関係の確立 ・地域との連携教育の実践推進	・学校ホームページのタイムリーな更新により、学校からの情報発信に努める。 ・学校開放日の設定や、地域の行事等へ積極的に参加する。	HPの更新回数 4：年50回以上 3：年40回以上 2：年30回以上 1：年20回以上	3	・ホームページについては、適時更新をしていた。部活動や、部署によっては更新が遅れているところもある。 ・積極的に学校開放講座、授業参観の日を設けた。	・中学生が見たい、知りたいと思うHPにしていたきたい。また、HPは企業や保護者、卒業生も見てるので、タイムリーな更新をお願いしたい。 ・評価基準がやや厳しいと感じるので、緩和してほしいか。	2
	学習習慣の確立 [学習行動]	・授業を大切にし、家庭学習に取り組むよう指導する。家庭学習時間調査や考査発表中の学習計画表配付などにより、学習習慣の確立を図る。	考査期間以外の授業以外の学習時間の平均が1時間以上の生徒の割合 4：5割以上 3：4割以上 2：3割以上 1：3割未満	1	考査期間中は1日平均180分勉強している。昨年度より考査期間以外を調査した。2回の調査の平均は32分であった。(H30は26分)中には考査前と同じくらい学習する生徒がいたが、残念ながら1時間以上は18%(H30は14%)であった。来年度ももっと勉強するよう指導したい。	・家庭学習の習慣は中学校までに確立されるべきものと考えている。考査期間以外の家庭学習については、指導が難しい面もあるが、家庭の協力を得ながら、粘り強い指導をお願いしたい。	1
教務部	基礎学力の向上 [学習結果]	・学習意欲向上のため成績優秀者やステップテスト優秀者を表彰する。また、成績不振者に補習等を行い、追指導考査を実施し、基礎学力の向上を図る。	ステップテストの得点が8割以上の生徒の割合 4：45%以上 3：40%以上 2：35%以上 1：35%未満	1	基礎学力の向上を図るために、言語分野と非言語分野の10分間テストをそれぞれ7回実施している。チャレンジ目標は「得点の8割」である。第6回までで33%であった。教科担当だけでなく、クラス担任もプリントを配付するなど積極的に取り組んでいる。	・生徒数の減少で、工業高校には学習意欲の低い生徒が増加するなど、厳しい状況が続くことが予測されるので、指導や取組に工夫が必要であろう。補習の強化等の取組も検討していただきたい。	2
	自己指導能力の育成、自己有用感、自己肯定感をもたせる指導の充実	・ホームルーム等における適切な役割分担と、活躍の場の設定を行う。 ・面談等を通して生徒理解を深める。 ・生徒会執行部と協力し、生徒の資質能力の向上を目指す。	生活アンケート結果において「学校に誇り」、「自分のことがすき」の割合が 4：7割以上 3：5割以上 2：3割以上 1：3割以下	3	ホームルームでは、ひとり一役を担い責任をもって活動できる生徒が増えた。また、生徒が主体的に活動できる場面が多く、自己有用感が高まった。学校創立100年の歴史に名を刻むという誇りをもった生徒も増えた。年間3回の面談も継続して取組、生徒理解に努めた。	・生徒指導への取組に敬意を払いたい。体育祭や文化祭を見学し、さわやかで元気な挨拶や自ら考え行動している姿に感動した。面談等の取組を引き続きお願いしたい	3
生徒部	開発的生徒指導によるいじめの未然防止	・いじめに対する学校の体制づくりを強化する。 ・いじめアンケートの内容を見直し、早期発見に努める。 ・いじめのとりえ方や認知について教職員の共通理解を図る。	4：いじめ防止基本方針の見直しを行い、研修会を実施した。 3：いじめ防止基本方針の見直しを行い、職員や生徒・保護者に周知した。 2：いじめ防止基本方針の見直しを行った。 1：いじめ防止基本方針の見直しを行っていない。	4	年間3回のいじめアンケートと担任による面談を通して、いじめの未然防止、早期発見に努めた。教育相談係やスクールカウンセラーと連携し、組織的に対応した。教員対象の研修会を行い、共通理解を図った。学校ホームページにいじめ防止基本方針を掲載し、学校外にも周知した。	・いじめ防止対策は、未然防止・早期発見が大切だと感じている。引き続き組織的な対応をお願いしたい。評価基準の数値化を検討していただきたい。 ・他人を傷つけることがどんなに悪いことか理解させることに意義があると思う。	3
	教育相談(特別支援)体制の充実	・担任からの情報をもとに気になる生徒を早めに把握し、関係教員と連携して面談やケース会議等を行う。 ・SCとの面談を仲介し専門的な助言を得られるようにする。	4：面談や情報共有が十分に行われ、生徒理解・指導に役立った。 3：一応の取り組みが出来、ある程度成果があった。 2：面談や情報共有はあまり出来ず、状況把握が不十分 1：面談や情報共有が全く出来なかった。	4	・担任からあがった情報を教育相談、SCを中心とした関係教員で共有し、ケース会議を積極的に行い、組織的な対応をすることができた。また、生徒だけでなく、保護者にもSCによる面談を行い、家庭との連携も図りながら生徒の支援ができた。	・教育相談を継続することで、不登校の生徒も徐々に学校に意識が傾くと思う。該当生徒を早期に把握し、生徒に寄り添った組織的な対応がなされていることは評価できる。	3

保健体育部	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・2000m持久走を実施することにより、持久力忍耐力をつける。 	<p>4：自己ベストを3回更新した生徒が60%いた。</p> <p>3：自己ベストを3回更新した生徒が50%いた。</p> <p>2：自己ベストを3回更新した生徒が40%いた。</p> <p>1：自己ベストを3回更新した生徒が30%いた。</p>	4	<p>全体的に、毎回自己ベストを出そうとがんばる生徒が増えてきた結果だと考える。この傾向が続くように、これからも叱咤激励をしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体力、特に持久力の向上のため2000メートル走は継続していただきたい。 ・目で見て分かる記録の更新は生徒のやる気に繋がると思うので継続してほしい。市民駅伝大会にクラス単位で参加することで意識の向上に繋がる部分があると思うので、検討してはどうか。 	4
	心身の健康の自己管理	<ul style="list-style-type: none"> ・治療率の向上を目指す。 ・保健だよりを発行し、心身の健康管理ができるように啓発する。 ・他の分掌や学年・保護者等と連携を心がけ、保健指導の充実を図る。 	<p>4：治療率が60%以上</p> <p>3：" 50%以上</p> <p>2：" 40%以上</p> <p>1：" 30%以上</p>	2	<p>全体の治療率は48.9%であった。来年度は、歯科に焦点を当てて、部活動と連携を取ったり、予防教育も促していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康が生活を支えていることを、あらゆる機会とおして教え、気づかせる指導をお願いしたい。 ・治療しない理由の分析を行い、早期治療を学校全体で徹底していただきたい。 	2
進路指導部	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な就職指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアライフやLHR、ガイダンスを利用し、個々の特性や適性を理解させ、企業情報の提供を行う。 ・積極的に個人面談や三者懇談を行い、意識を高め、希望する就職を実現させる。 	<p>4：1次試験の合格率が95%以上</p> <p>3：1次試験の合格率が90%以上</p> <p>2：1次試験の合格率が85%以上</p> <p>1：1次試験の合格率が80%未満</p>	3	<p>毎年のように求人数が増える中このような結果が出るのは、生徒の力に相応しくない企業を受験しているからだと思われる。推薦先の決定は希望を優先させるのではなく、自己理解を深めさせマッチングを考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や保護者にとって進路選択は大変であり、全員一発合格が望ましいが、難関校やハードルの高い企業に挑戦する実をつけてほしい。 ・求人数が増え選択の幅が広がっており是非生徒にマッチングした企業が選択できるよう指導していただきたい。また、就職後の離職対策も含めた指導も併せてお願いしたい。 	3
	生徒の個性、能力、希望に応じた適切な進学指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが希望進路先を明確にできるように、個人面談、三者懇談、進学説明会などで適切な情報を提供する。 ・進学課外などを実施することで、希望の進路先に進める能力を高める。 	<p>4：希望進学先への決定が100%</p> <p>3：希望進学先への決定が95%以上</p> <p>2：希望進学先への決定が90%以上</p> <p>1：希望進学先への決定が90%未満</p>	1	<p>合格率が低い(16/18)のは進学者の人数が少ないこともあるが、H29年度から高専編入試験の合格者が出ていないのは今後の大きな課題としたい。他方、推薦やAO入試においては難関と思われる学校に合格している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高専への編入試験合格は難しいが、コンスタントに合格者を出すことで学校全体のモチベーションもあがると思う。 	1
工業	資格取得指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動の大会期日を調査し、資格試験日を生徒に提示することにより、生徒一人一人に資格取得の予定を立てさせ、資格取得の意識付けをさせる。 	<p>4：ジュニアマイスター3000点以上</p> <p>3：ジュニアマイスター2500点以上</p> <p>2：ジュニアマイスター2000点以上</p> <p>1：ジュニアマイスター2000点未満</p>	2	<p>2月4日現在、全校の総得点が2379点である。今後技能検定の合格発表や危険物試験が残されているのでもう少し点数が伸びることが期待される。資格試験のサポートはしているが、家庭学習習慣の定着が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得は明確な目標であり、基礎学力の向上に繋がっていると感じる。一人ひとりの意欲の向上とともに学習意欲の低い生徒に対する指導をお願いしたい。 	2
	教職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・各種指導者講習会に参加することにより教職員の指導力向上を計る。 	<p>4：3種類以上の講習会に参加した。</p> <p>3：2種類の講習会に参加した。</p> <p>2：1種類の講習会に参加した。</p> <p>1：1度も講習会に参加しなかった。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> ・3種類以上の講習会に3名、2種類の講習会に4名、1種類の講習会に10名の教員が参加し、指導力の向上に努めた。より多くの先生方に研修会、講習会に参加していただくよう働きかけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算的な部分や働き方改革との関連はあるが、教職員の指導力向上に向け多くの先生方に講習会等に参加していただきたい。 ・企業で働くことの大変さを経験させ、教員自身の体験談や経験を生徒に話す機会を設けてほしい。 	2

1 年 部	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本に、「時間を守る（5分前行動）」「決まりを守る」「挨拶応答」がしっかりとできるように指導する。 	4：皆勤が65%以上 3：皆勤が55%以上 2：皆勤が45%以上 1：皆勤が45%未満	3	<ul style="list-style-type: none"> 2学期期末考査終了時点で皆勤率62%。全体的には落ち着いて学校生活を送っている。諸々の事情で出席ままならない生徒が数名居り、個々に応じた対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に求められる力は向上しているが、それに対応できる基礎力をつけさせてほしい。 遅刻や欠席は企業では致命的。生活習慣や授業規律を軽視している生徒がいるのであれば個別対応をお願いしたい。 	3
	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切にしよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。 家庭学習の時間が増すように指導する教科書類はすべて持ち帰らせる。 	4：ステップテスト8割以上が45%以上 3：ステップテスト8割以上が40%以上 2：ステップテスト8割以上が30%以上 1：ステップテスト8割以上が30%未満	2	<ul style="list-style-type: none"> 1月の第6回終了時点で8割以上が学年で31%。40%を超えるクラスもあるが、全体的には学習習慣が身につけていない生徒が多く、継続して指導をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次での学習習慣の確立が重要であるため、成績不振者や意欲の低い生徒に対して粘り強い指導をお願いしたい。 クラス目標を設定し、生徒同士が励まし合うようなクラスづくりをしてほしい。 	2
2 年 部	基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 「あたりまえのことがあたりまえにできる」ことを基本に、「時間を守る（5分前行動）」「決まりを守る」「挨拶応答」がしっかりとできるように指導する。 	4：皆勤が65%以上 3：皆勤が55%以上 2：皆勤が45%以上 1：皆勤が45%未満	3	<ul style="list-style-type: none"> 2学期期末考査終了時点で皆勤率63%。全体的には落ち着いて学校生活を送っている。学校行事等においても対応できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理に気を配ることで、社会人として仕事への責任感を醸成することになる。高等学校在学中に、基本的な生活習慣を確立させていただきたい。 	3
	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を大切にしよう指導するとともに、資格試験取得を奨励・支援する。 進路選択の意識を高め、家庭学習の定着を促す。 	4：ステップテスト8割以上が45%以上 3：ステップテスト8割以上が40%以上 2：ステップテスト8割以上が30%以上 1：ステップテスト8割以上が30%未満	2	<ul style="list-style-type: none"> 第6回までの2学年としての結果は36%である。一クラスは45%を超える結果である。学習に対する意欲を高めていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年次になって焦って勉強したのでは遅いと感じる。2年生のうちから意識向上を図るための指導をしていただきたい。 	2
3 年 部	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談や個別指導を充実させるとともに、進路選択に関わる情報提供の充実を図る 	4：希望に添った進路情報の提供が十分出来た。 3：希望に添った進路情報の提供が出来た。 2：希望に添った進路情報の提供があまり出来なかった。 1：希望に添った進路情報の提供がまったく出来なかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と各担任の連携により、面談、面接指導等を通して情報提供を行った。求人状況が好調だったことも一因だが、多くの生徒が希望企業の内定を得ることができた。また、進学者も多くが希望進路を実現した。 	<ul style="list-style-type: none"> 工業高校生としての総仕上げとして、企業が求める資質・能力について理解させ充実した高校生活を送らせてほしい。 	4
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現のため、自主学習の定着を促す。 自己有用感につながるように資格取得を奨励・支援する。 	4：ステップテスト8割以上が45%以上 3：ステップテスト8割以上が40%以上 2：ステップテスト8割以上が30%以上 1：ステップテスト8割以上が30%未満	2	<ul style="list-style-type: none"> ステップテストの平均点が8割をこえる生徒は学年全体では34%で、59%に達した科もある。進路決定後の結果が低調だったことが平均点低下の要因と考えられる。卒業まで気を緩めず資格取得等に取り組んでいくよう励ましていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定後の学習については、未決定者に悪影響が出ないように指導をお願いしたい。卒業まで気を緩めず、学ぶ姿勢を継続するような指導をお願いしたい。 	2

業務改善	日常的な業務	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員の元気とやる気の生まれる職場の人間関係づくり（ラインケア）を進める。 ・業務のペーパーワーク化を進め、作業効率の向上や人材育成の推進、業務分担の適正化を図る。 	<p>4：教職員アンケートの「分掌業務の組織的な取組」における肯定的な回答が60%以上。</p> <p>3：教職員アンケートの「分掌業務の組織的な取組」における肯定的な回答が50%以上。</p> <p>2：教職員アンケートの「分掌業務の組織的な取組」における肯定的な回答が昨年並み。</p> <p>1：教職員アンケートの「分掌業務の組織的な取組」における肯定的な回答が昨年を下回った。</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果では分掌業務の組織的な取組についての項目では、昨年度の34%から45%に若干ではあるが上昇した。教員構成や希望により、適材適所を基本的に配置をしているが、半数以上の教員が改善が必要だということが伺える。来年度以降も、作業効率の向上や人材育成、業務分担の適正化を図り、元気とやる気の生まれる職場環境づくりを推進していきたい。 	2
	学校の組織等	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員による授業参観及び研究協議を年2回以上実施する。 ・校内研修や自主研修等の充実を図る。 ・教育関連記事等の紹介を推進する。 	<p>4：計画した研修や情報提供の80%以上を実施した。</p> <p>3：計画した研修や情報提供の70%を実施した。</p> <p>2：計画した研修や情報提供の60%を実施した。</p> <p>1：計画した研修や情報提供の50%未満しか実施できなかった。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の信頼回復や教職員の資質能力向上を目的として、「アンガーマネジメント」「ベップトーク」「整理整頓」等の研修を実施した。 ・授業参観についても、若手教員の研究授業に多くの教員が参観することで、若手だけでなくベテラン教員の授業改善も図られた。 	3
	勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の状況を掌握し、縮減を呼びかける。 ・年休や代休の取得を呼びかける。 ・ノー残業デーの年5回設定と実施。 	<p>4：年間の時間外業務時間が15%以上減少した。</p> <p>3：年間の時間外業務時間が減少した。</p> <p>2：年間の時間外業務時間に変化が見られなかった。</p> <p>1：年間の時間外業務時間が増加傾向にあった。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の気運が醸成され、年休取得の向上やノー残業デーの実施、適切な部活動指導により12月末現在で、昨年比-11%を達成した。しかしながら、国の基準を超える時間外業務時間の教員は半数を超えている現状があり、今年度の取組を加速させ更なる減少に努めたい。 	3

6 学校評価総括（取組の成果と課題）

今年度の総括として、「ものづくりのまち下松」を支える多くの人材を輩出する高等学校として、地域や企業からの期待もこれまで以上に高まっている。昨今の働き手不足を考えると下松工業に求められる役割はさらに大きなものになる。社会に出れば外国人労働者とコミュニケーションをとりながら一緒に仕事を行うなど、これまでの生活とは違い様々な悩みが出てくると思われる。学生の時から社会の変化や環境に十分対応できる適応力を養い、下松工業の卒業生として地域産業を担う人材づくりに貢献していただきたいとの提言をいただいた。また、教職員の教育に対する取組に対しても肯定的な意見や評価をいただくことができた。

1 重点努力目標・・・地域産業を担う人材の育成 「凡事徹底」

(1) 【学習指導】基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得

学習意欲の向上と学習習慣の確立に向けて、テスト結果や家庭学習時間調査による結果をもとに、資格取得試験に向けての個別指導や補習による全校体制で取り組んだが、家庭学習時間の増加には至らなかった。入学時点で学習習慣が身につけていない生徒も多数おり、学習習慣の確立に向けた取組方法の見直しが必要である。また、若手教員のフォローアップ研修や授業公開週間を活用した研究授業等、今後も授業改善を積極的に図り、学習意欲の向上に繋げていきたい。

ものづくりでは、高校生ものづくり大会及び若年者ものづくりコンテストにおいて、全国3位をはじめ、県外大会でも研代表として多くの入賞を果たし、「ものづくりの工下」を地域や企業に対しアピールできた。

(2) 【生徒指導】人間力の向上(自ら気づき、考え、行動できる人)

身だしなみや挨拶の励行などについては、学校運営協議会でも昨年度同様に高い評価をいただき、概ね問題は無い。校外における善行についても報告されている。問題行動については、昨年度と比較して増加しており内容についてはSNS上でのトラブルが多数を占めている。インターネットやスマートフォンの取扱いについての継続的な指導が課題としてある。生徒だけでなく、保護者も含めた学習や研修会を外部機関と連携しながら、生徒主体の活動を支援し効果的な方法を模索していきたい。

ボランティア活動については、昨年度に引き続き多くの生徒が積極的に参加し、地域行事を支えた。人間力の向上やコミュニケーション力に繋がるよう、学校として地域への協力や支援を継続したい。

(3) 【校務分掌・その他】教職員の協働体制による組織力の向上

個々の教員が主体的に業務に関わり、協働体制による組織力の向上を目指し業務改善を図り、教職員によるアンケート結果に於いて、肯定的意見が昨年度を上回った。今後も学校における働き方改革や組織的・計画的なOJTの実施を柱として、教職員が実感できる業務改善に取り組む、学校全体の教育活動に還元できる体制づくりを図りたい。

「下工キャリアアップセミナー」や「小学生ものづくり教室」の内容についても見直しを図り、周南地区の中学生や市内の小学生に魅力ある学校として位置づけられるよう、本校のアピールの方法も含めイメージアップを図ることで、入学志願者の増加にも繋げたい。

2 チャレンジ目標 「皆勤(遅刻・欠席0)」「ステップテスト点数8割以上」

年度当初にチャレンジ目標として上記の2項目を掲げ全校体制で取り組んだ。皆勤については半数以上の生徒が達成し、ステップテストの点数については、4割弱の生徒が年間をとおして8割以上の点数を獲得するに留まり、目標達成に至らなかった。

7 次年度への改善策

【学校運営】学校の信頼回復と教職員の資質向上を目指した研修は一定の成果があり、来年度も新たな視点や分野について検討し、継続実施していきたい。また、入学志願者について一部学科において定員割れが発生しており、下工キャリアアップセミナーの内容見直しや学校HIPの工夫をとおして学校の魅力を発信し、志願者増加に繋げていきたい。

【学習指導】資格取得に向けた取組については、目標どおりの結果を出すことができた。一方で普段の家庭学習の取組については、生徒の意識や学習時間の不足について課題が残った。授業以外の個人指導や補習を継続するとともに、授業改善や家庭学習支援の具体的な手立てを示すことで、生徒の学習意欲の向上や家庭学習時間の増加を図りたい。また、来年度から導入予定した「基礎力診断テスト」と既存の「課題テスト」等を併用しながら、確かな学力の定着と向上を図りたい。

【生徒指導】生徒の自己指導能力の育成を目標とし、面談等をとおして生徒理解に努めたが、問題行動件数は昨年度と比較し増加した。また些細なものも含めいじめと認知された事案も数件発生した。何れの事案についてもSNSによるトラブルが原因となっており、ネット上でのトラブル回避や生徒間のコミュニケーション力を高めるための指導について、未然防止を含めた対策を講じていきたい。

【進路指導】本年度の3年生については概ね希望どおりの進路が決定した。今後も従来どおりの進路指導に加え、新たな求人先の開拓や生徒の資質能力など特性に沿ったマッチングに視点をおいた就職指導の充実を図りたい。大学や高専編入希望者に対し、十分な情報提供や受験対策についての指導を充実させ、特に高専編入希望者の合格を目指したい。

【健康安全教育】健康診断結果による治癒率の更なる向上を目指し、保健体育課、学級担任、部活動顧問、保護者が連携し生徒自身が健康管理に対して適切な生活習慣や行動をとることで、治癒率100%を目指したい。また、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防についても蔓延防止に向けた早期の指導を図りたい。

【特色づくり】地域産業を担う人材育成の視点から、「下工キャリアアップセミナー」や「小学生ものづくりコンテスト」など既存の行事について内容の見直しを行い、地域の子どもたちにとって魅力ある学校をアピールし、入学志願者数の増加に繋げていきたい。

【業務改善】教職員の負担軽減や時間外業務時間縮減に向けて、業務の均等化を図るために改めて見直しを行い、教職員が実感できる働き方改革を加速させていく。これまでの取組を検証し、教職員の協力を仰ぎながら働き方改革を進めていきたい。